

# 福島・南相馬市における宇宙産業への取組み

2026年7月1日

一般社団法人宇宙産業連携機構

ASTRO GATE株式会社

南相馬市

# 一般社団法人宇宙産業連携機構

2011.3.11 押し寄せる津波 ― 南相馬市沿岸部



2011.3 ― 東日本大震災・福島第一原子力発電所事故

## 津波と原子力災害が、南相馬市の沿岸部を一変させた。

広大な沿岸部が被災し、長期の避難を強いられた。その地が、いま宇宙産業の最前線になりつつある。

## 東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故による被害

南相馬市は東日本大震災及び原子力発電所事故により、多くの人的被害・家屋被害を受けた。



津波被災後の沿岸部（南相馬市）

### 【津波被害】

津波による浸水面積は **40 km<sup>2</sup>** にのぼった。

### 【人的・家屋被害】（令和7年8月8日現在）

|         |         |
|---------|---------|
| 死亡      | 1,158人  |
| （直接死）   | 636人    |
| （震災関連死） | 522人    |
| 行方不明    | 0人      |
| 負傷者     | 59人     |
| 家屋被害    | 5,312世帯 |
| （全壊）    | 1,277世帯 |
| （半壊）    | 1,368世帯 |
| （一部損壊）  | 2,667世帯 |

## 宇宙産業集積の歩み ― 誘致から立地・体制整備へ（2020～2024）

---

**2020.8 ● Makoto Capital（現Spurcle）が相双オフィスを設置（小高区）**

宇宙・スタートアップ支援の拠点が進出。集積の起点となる。

**2022.5 ● AstroX が創業・南相馬市に本店登記**

市内に本店を置く最初の宇宙企業が誕生。

**2022.8 ● インターステラテクノロジズ（IST）が南相馬市と協定締結**

主力ロケット企業が市と連携し、誘致の枠組みが始動。

**2023.4 ● Elevation Space・AstroX と協定締結**

市と宇宙企業の協定が相次いで締結される。

**2023.9 ● 福島スペースカンファレンス2023 開催（第1回）**

産業を可視化する場が誕生。以降、毎年規模を拡大。

**2023.9 ● IST が南相馬市への工場立地を表明**

「協定」から「立地」へ。実体ある集積が前進。

**2024.3 ● Elevation Space 立地表明／将来宇宙輸送システムと協定**

工場立地と協定がさらに拡大する。

**2024.4 ● 市に「宇宙関連産業推進室」を設置／内閣府等へ出向**

行政体制を整備。三菱倉庫との人事交流も開始。

## 被災により得た広大な実証用地が、多くの民間企業の立地につながった

福島の最大のアドバンテージは、すでに実証施設の整備が進んでおり、今後も見込まれること。さらに、補完する形で多額の民間投資が入り始めている。

### 福島ロボットテストフィールド（RTF）

≒76億円

（整備事業費：H28-R1年度）

南相馬市復興工業団地内 約50ha。陸・海・空のロボット開発実証拠点（2020年全面開所）。国庫債務負担行為により整備し、現在はF-REIに移管・運営。累計利用 約2,000件。宇宙関連ではIST・AstroX等がロケット関連実験に活用。

### F-REI（福島国際研究教育機構）

≒1,000億円規模

（7年間：R5～R11年度）

浪江町に本部。創造的復興の中核拠点で研究者・職員500名体制を目指す。R7年度予算165億円（運営費交付金126億＋施設整備費38億）。ロボット・農林水産・エネルギー・放射線科学・原子力災害データの5分野。

### 三菱倉庫 MLC Space Lab

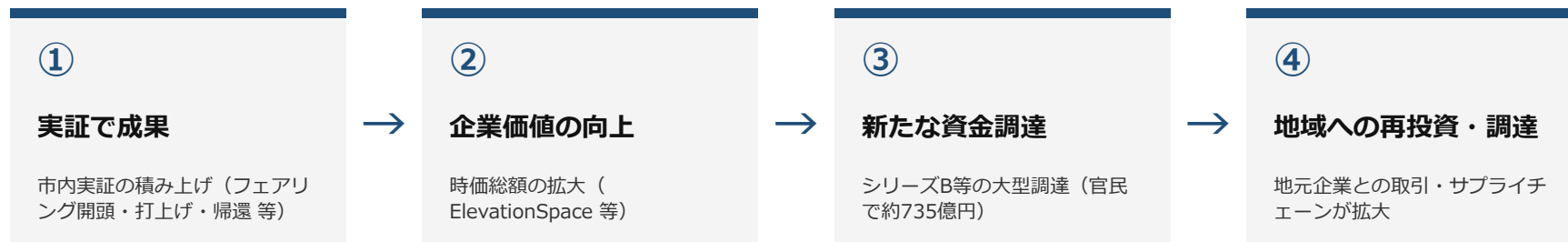
≒34億円

（元の建設投資額）

復興工業団地内 延床3,090㎡（敷地3.6ha）。2021年6月開所後に三菱倉庫が取得・改装し、2025年から宇宙SU向けインキュベーション施設として本格稼働。ISC・AstroX等が入居。

## 実証の成果が企業価値・資金調達を生み、地域取引へ還流し始めている

実証 → 企業価値の向上 → 新たな資金調達 → 地域への再投資・調達。この循環が回り始め、地域取引が急増している。



🔄 地域に還流し、次の実証を生む（好循環）

南相馬市の航空宇宙関連 地域取引（前年比）

**625 件**

取引件数 — 前年比 約8倍

**約2.3 億円**

取引金額（232,081,063円）

実証で生まれた力が、地元企業の受注・取引として地域に還元されている。

※ この約2.3億円は南相馬市のみの数字。周辺自治体を含めれば、波及効果はさらに大きくなりつつある。

南相馬市

# 南相馬市のこれまでの取組みと関連する出来事

- 2020.08 Makoto Capital(現Spurcle)が相双オフィスを設置(小高区)
- 2020.12 Makoto Capital と連携協定を締結
- 2022.05 AstroXが創業、南相馬市に本店登記
- 2022.08 インターステラテクノロジズと連携協定を締結
- 2023.04 Elevation Space、AstroXと連携協定を締結
- 2023.08 福島スペースカンファレンス2023を開催(第1回)  
インクルーシブが南相馬市と協力し、衛星データを活用した実証を実施
- 2023.09 インターステラテクノロジズが南相馬市に工場立地を表明
- 2024.01 東北大学と連携協定を締結(宇宙・ロボット領域)
- 2024.03 LAND INSIGHTと連携協定を締結  
Elevation Spaceが南相馬市に工場立地を表明  
将来宇宙輸送システムと連携協定を締結
- 2024.04 南相馬市 商工観光部内に宇宙関連産業推進室を設置  
三菱倉庫と宇宙領域における人事交流を開始  
南相馬市から内閣府宇宙開発戦略推進事務局に出向  
インクルーシブから南相馬市に出向、関連会社を設立
- 2024.05 南相馬市がロケット打ち上げ実証に向けた住民説明を開始
- 2024.07 内閣府 宇宙政策委員会 宇宙輸送小委員会において  
宇宙港に関する検討状況について説明  
(北海道、大分県、和歌山県、鹿児島県と福島県南相馬市)
- 2024.08 福島スペースカンファレンス2024を開催(第2回)  
イノベ機構と会津大学が月面探査技術の研究開発を表明
- ①AstroXが超小型ロケット打ち上げ実証  
(1.8mの機体を約300mの高さまで打上げ)  
与党 復興加速化本部の第13次提言に  
「衛星・宇宙産業の将来の産業化を見据えた環境整備」の文言
- 2024.08 ASTRO GATEと連携協定を締結
- 2024.10 三菱倉庫と連携協定を締結
- 2024.11 ②AstroXがロケット打ち上げ実証  
(6mの機体を約7kmの高さまで打上げ)
- 2024.12 ③神奈川大学がロケット打ち上げ実証  
(4.5mの機体を約10kmの高さまで打上げ)  
城内実宇宙政策担当大臣視察
- 2025.02 ロケット甲子園 決勝大会開催
- 2025.03 公明党東日本大震災復興加速化本部視察
- 2025.05 JAXA角田若手職員研修を南相馬市で実施(第1回)
- 2025.06 復興の基本方針改定「実証の聖地」目指す方針を明記  
復興の青写真改定
- 2025.07 玄葉光一郎衆議院副議長視察
- 2025.08 福島スペースカンファレンス2025を開催(第3回)
- 2025.09 奥水恵一復興副大臣視察  
伊東良孝内閣特命大臣視察(地方創生関連)
- 2025.10 SUIHO SPACE INNOVATIONSと連携協定を締結
- 2025.12 インターステラテクノロジズ東北支社開所式
- 2026.02 第7回宇宙開発利用大賞「経産大臣賞」「農水大臣賞」W受賞
- ④AstroXが小型ロケットの吊下げ発射実証  
PDエアロスペースと連携協定を締結  
宇宙甲子園ロケット部門 全国大会を開催
- 2026.03 東北宇宙産業検討会を発足  
(東北経産局、能代市、角田市、JAXA)
- 2026.04 南相馬市からJAXA角田宇宙センターに出向
- 2026.05 JAXA角田若手職員研修を南相馬市で実施(第2回)
- 2026.06 AstroXがロケット空中発射に向けた気球の係留実証

# 南相馬市に集積する宇宙関連企業

- スタートアップ企業を中心に、既に多くの宇宙関連企業が、南相馬市に集まってきている。
- 令和8年6月末時点で、10社の宇宙関連企業・機関と市の間で、連携協定を締結。

2022.8 締結

## インターステラテクノロジズ

- 小型ロケット「ZERO」を開発し低価格な宇宙輸送サービスの実現を目指す
- 南相馬市に工場を設置

小型ロケット  
イメージ



2024.3 協定

## 将来宇宙輸送システム

- 高頻度・大量の宇宙往還を可能とする旅客輸送システムの実現を目指す
- 南相馬市に支社を設置

宇宙往還機  
イメージ



2023.5 締結

## AstroX

- 気球から発射する「ロッキーン方式」のロケットの実現を目指す
- 南相馬市に本社を設置

ロケット  
イメージ



2024.8 締結

## ASTRO GATE

- スペースポートに関する調査、企画、運営などを幅広く手掛ける
- 南相馬市における宇宙事業の展開に協力



2023.4 締結

## ElevationSpace

- 地球低軌道における実験プラットフォームの提供を目指す
- 南相馬市を実証フィールドとして活用

プラットフォーム  
イメージ



2024.10 締結

## 三菱倉庫

- 南相馬市における宇宙関連産業に特化したインキュベーション施設・研究開発施設の運営等に取り組む



2024.1 締結

## 東北大学

- 浜通り地域の創造的復興や地域の活性化に貢献
- 福島サイエンスパーク構想の実現を加速化

サイエンスパーク  
イメージ



2025.10 締結

## SUIHO SPACE INNOVATIONS

- 共用可能な実証実験施設の整備等を目指す
- 南相馬市における民間企業のロケット開発支援に取り組む



第7回宇宙開発利用大賞  
農林水産大臣賞受賞 2023.8 締結

## LAND INSIGHT

- 衛星データ活用により農林水産業等の1次産業から防災・災害対応などのDXを目指す
- 南相馬市に本社を設置

圃場データベース



2026.2 締結

## PDエアロスペース

- 完全再使用型宇宙飛行機の実現を目指す
- 南相馬市にラボの設置を検討中

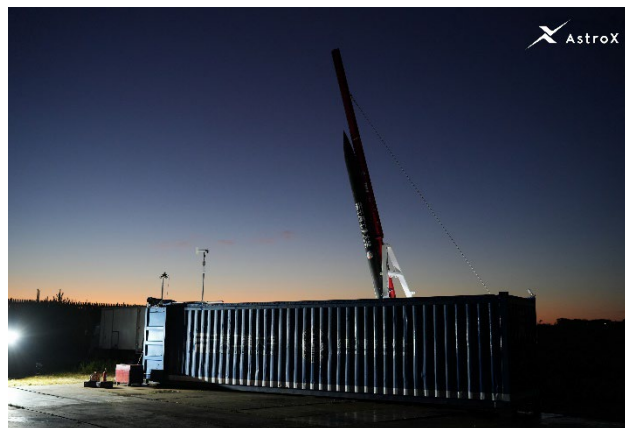
スペースプレーン  
イメージ



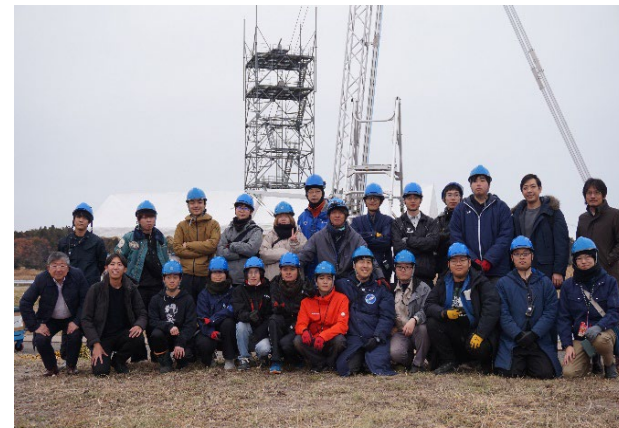
# 市内で実施された主な宇宙関連企業の実証試験



R6. 4. 24  
帰還カプセル着水実験  
(ElevationSpace)



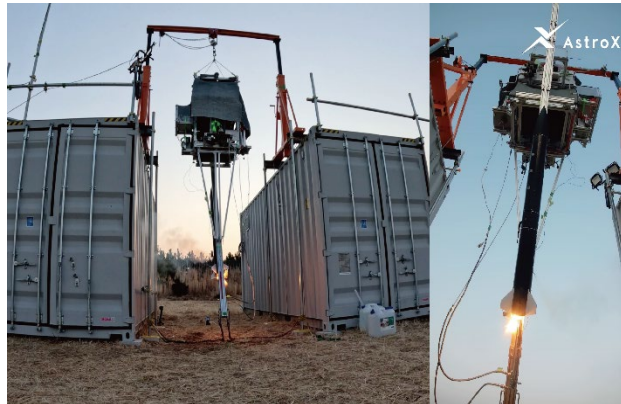
R6. 8. 25 R6. 11. 9  
ロケット打ち上げ実証実験  
(AstroX)



R6. 12. 14  
ロケット打ち上げ実証実験  
(神奈川大学)



R8. 1. 7  
ZERO衛星フェアリング分離放てき試験  
(インターステラテクノロジズ)



R8. 2. 14  
ロケット空中発射実証実験  
(AstroX)



R8. 6. 9  
ロケット空中発射に向けた気球係留実験  
(AstroX)

## 【参考】市内における実証・開発等拠点①

### 福島ロボットテストフィールド、復興工業団地



出典:「PLATEAU VIEW(国土交通省)\_(<https://www.mlit.go.jp/plateau/>)を加工して作成

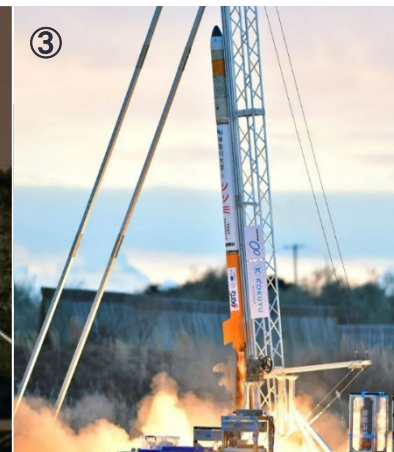
## 【参考】市内における実証・開発等拠点②

### 南相馬市産業創造センター、福島県立テクノアカデミー浜



## 【参考】市内における実証・開発等拠点③

### ロケット発射実証地



#### <ロケット発射実証試験の実績>

- ①2024.8 AstroX  
超小型ハイブリッドロケット  
(全長約1.8m 到達高度約300m)
- ②2024.11 AstroX  
ハイブリッドロケット  
(全長約6.5m 到達高度約7km)
- ③2024.11 神奈川大学  
ハイブリッドロケット  
(全長約4.8m 到達高度約10km)

# 宇宙関連企業の進出に向けた支援体制

- 実証試験の実施には、公的機関への申請・申告や地元関係者との調整・相談、用地の確保など、多数の工程をクリアする必要があるため、人員や地域内での人脈の少ないスタートアップ企業にとって、大きな障壁。
- 市がサポートに入り、これらの負担を軽減することで、企業は本業に専念することが可能。
- 南相馬市では、進出から開発・実証、本格的な事業化まで、一貫して伴走支援する体制を構築。

## ① 進出フェーズ

初期段階の拠点確保をサポート

- 各主体がスタートアップ企業の止まり木となるインキュベーション施設や貸事務所・研究室・工場を提供
  - ✓ 南相馬市産業創造センター(市)
  - ✓ MLC SPACE LAB(三菱倉庫)
  - ✓ 福島ロボットテストフィールド(F-REI)
- 民有地・建屋の活用に向けて、所有者・仲介事業者へ橋渡し

## ② 開発・実証フェーズ

円滑な実施をサポート

- 各種法規制(航空法、電波法、火薬類取締法、高圧ガス保安法、消防法等)への対応に関して、情報提供
- 公的機関(県、市、海上保安庁、消防、警察等)への申請・申告に向けて、橋渡し・サポート
- 実証用地として市有地を提供、その他必要な設備等の確保をサポート
- 開発・実証に協力してくれる地元企業・関係機関等に橋渡し
- 周辺住民・地元関係者等への説明・調整をサポート

## ③ 事業化フェーズ

本格的な事業展開・拡大をサポート

- 市が複数の工業団地を整備し、産業用地として提供
- 民有地・建屋の活用に向けて、所有者・仲介事業者等に橋渡し
- 所有者・周辺住民・地元関係者等への説明・調整をサポート
- 各支援機関と連携しながら、事業パートナーとなる地元企業とのマッチングをサポート

### <南相馬市の支援体制>

- 宇宙関連産業の振興を担う部署として「宇宙関連産業推進室」を商工観光部内に設置し、管理職・担当者を配属(令和6年4月)
- 内閣府 宇宙開発戦略推進事務局、経済産業省、JAXA、民間企業(三菱倉庫)等への職員派遣により、人的ネットワークを形成
- 市と地域の各支援機関(宇宙産業連携機構、ゆめサポート南相馬等)が緊密に連携し、地域ぐるみで支援体制を構築
- 国・県に加え、市独自の各種支援制度(企業が開発・実証や設備投資を行う際の補助金等)を措置

# 今後の取組の方向性

- 宇宙関連産業を地域の基盤として発展・定着させるため、企業のニーズに応じた開発・実証環境の整備が急務。
- 人材・サプライチェーンの確保に向けては、市単独ではなく、広域的な連携による取組が必要不可欠。
- 将来的な射場・宇宙港の整備については、未定だが、引き続き様々な面から可能性の有無を検討していく。

## 輸 送 系

### STEP Zero・・・既存拠点の活用

- ・市有地を活用したロケット打上げ実証等
- ・福島ロボットテストフィールド等を活用した各種実験



### 1st STEP・・・水平燃焼試験設備の整備

- ・エンジンや部品等の燃焼試験に必要な施設について、民間企業主体で整備を検討中(個社占有or各社共用)



燃焼試験設備

@インターステラテクノロジズ(北海道)

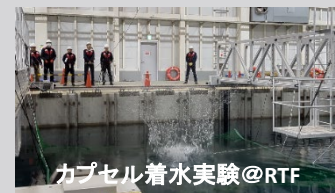
### 2nd STEP・・・ステージ燃焼試験施設の整備

- ・射場としての活用余地も踏まえ、本格的なエンジン燃焼試験施設の整備の可能性を調査・検討中

## 衛 星 系

### STEP Zero・・・既存拠点の活用

- ・海上における各種実験
- ・福島ロボットテストフィールド等を活用した各種実験



### 1st STEP・・・環境試験施設の整備

- ・衛星等の環境試験に必要な機器・施設について、民間企業主体で整備を検討中  
(例えば、振動試験装置、熱真空チャンバー等)

### 2nd STEP・・・研究開発拠点の整備

- ・大学や研究機関等との連携を前提に、衛星関連の研究開発の中核となる拠点の整備の可能性を調査・検討中

現状の取組

将来的な可能性を検討中

- 市としての取組に加えて、**広域連携**により、市単独では実現困難な課題に対応する枠組みを構築し、各々の強みや特性を活かしながら、**地域全体として宇宙開発・産業を支えていく未来**の実現を目指す。

# 【参考】広域連携による取組

## (1)東北宇宙産業検討会

- 東北経済産業局は、令和8年3月24日、宮城県角田市、秋田県能代市、福島県南相馬市及びJAXAと、「東北宇宙産業検討会」の設置を公表。第1回会合を同月26日に開催。
- 本検討会を通じて、東北地域のポテンシャルをいかして宇宙関連産業の集積を促進し、日本の宇宙開発及び宇宙利用を支える東北地域の実現を目指すことが示された。

### 【名称】

東北宇宙産業検討会

### 【参加者】

外部有識者、角田市、能代市、南相馬市、JAXA 等

### 【内容】

東北地域における宇宙関連産業振興に向けた課題の共有及び解決の方策の検討

東北経済産業局プレスリリース「東北宇宙産業検討会の開催について」(2026年3月24日付)より抜粋

### 検討・取組事項

### 議論内容

#### ①宇宙インフラ施設（燃焼試験施設）の充実

既存インフラの活用推進と将来的な燃焼試験施設新設

・ JAXA官民共創推進系開発センターの活用推進に向けた支援施策をはじめ、ロケットの研究開発・製造・量産に向けた宇宙インフラ施設（燃焼試験施設）の充実に向けて。

#### ②宇宙産業人材の育成・確保

宇宙産業を支えるエンジニア人材・マネジメント人材等の確保

・ 宇宙産業を支えるマネジメント人材、エンジニア人材等の確保策や若年層へのアプローチ施策等について。  
・ 試験施設の運営を行う人材確保・育成方法について。

#### ③宇宙産業SCの構築

宇宙産業SCのあるべき姿の明確化と効果的なマッチングの促進

・ 宇宙産業SC姿を想定しつつ、地域企業が宇宙SUとマッチングを促進するための方策について。

- 17

## 【参考】政府文書等における位置づけ

### (1)「第3期復興・創生期間」における基本方針

- 「第3期復興・創生期間」における基本方針にて、2030年頃までの自立的・持続的な産業発展のため、航空宇宙を含むイノベ重点分野において、「あらゆるチャレンジが可能な地域」「地域の企業が主役」「構想を支える人材育成」を柱として、「実証の聖地」を目指すとして位置づけられた。  
(令和7年6月20日閣議決定)

### 【第3期復興・創生期間の基本方針】(抜粋)

#### ⑤福島イノベーション・コースト構想を軸とした産業集積等、事業者再建

・地元事業者による新たな事業展開や新たな取引拡大と、域外からの新たな活力の呼び込みの両輪で進めることが重要であるとの考えの下、「あらゆるチャレンジが可能な地域」、「地域の企業が主役」、「構想を支える人材育成」の3つを取組の柱として、「**実証の聖地**」を目指して、廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連、航空宇宙の重点分野を中心に、食に関する新技術(フードテック)も含め、企業立地補助金等を効果的に活用し、産業集積や社会課題解決に資する取組を進める。

・**衛星・宇宙関連の将来の産業化を見据えた環境整備につながるものも含め、実用化開発や実証の誘致等を通じ、スタートアップ企業等を呼び込む。**

### 【2.復興を支える仕組み】(抜粋)

#### (1)復旧・復興事業の財源等

・現時点で、令和8年度から5年間の復旧・復興事業の規模は1.9兆円程度と見込まれ、令和7年度までの事業規模が33兆円程度と見込まれることを踏まえると、令和12年度までの20年間の事業規模については、34.9兆円程度となると見込まれる。

・福島県については、県や市町村が進めている事業を十分に確保した上で、次の5年間の全体の事業規模が今の5年間に十分に超えるものと見込まれる。

- 復興庁、経済産業省、福島県によって策定された、浜通り地域等の自立的・持続的な産業発展の実現に向けた産業発展のビジョン。
- 第2期復興・創生期間後の次の5年間にに向けた課題認識や地域の実情を踏まえ、令和7年6月6日に改定。
- その中で、具体的な取組として、「宇宙スタートアップの挑戦の場としての立ち位置の確立」を明記。

中長期的に目指していく姿(抜粋)

(3)重点分野における分野別戦略

⑥航空宇宙

【iii 目指すべき姿と具体的な取組】

～地域の稼ぎへの貢献～

- ・宇宙産業は、近年、浜通りに宇宙スタートアップが集積しつつある状況。
- 福島を含む地域企業によるロケットや衛星といった宇宙産業への貢献と、それを通じた地域経済の発展が、好循環になるように目指す。

～具体的な取組～

**(宇宙スタートアップの挑戦の場としての立ち位置の確立)**

- ・宇宙関連機器製造の現場技術を持つ人材育成を促進。
- ・経験のある企業OB等の人材とスタートアップ企業のマッチングに対する支援。
- ・大都市のスタートアップ支援事業との連携や、JAXA角田宇宙センターや東北大学等の東北地方の研究機関等との協働を図り、広域的にスタートアップを支援。
- ・「連携“絆”特区」の指定を生かした、規制合理化及び国内唯一の開発環境の地位を追求。
- ・SBIRフェーズ3基金をはじめ、宇宙政策や宇宙産業の動向に注視しながら、各社の協調領域といえる実証や量産への支援。

**(宇宙産業のサプライチェーンの構築と強靱化)**

- ・地元企業と進出企業の量産体制を構築。
- ・大手企業等との取引拡大を推進。
- ・企業の生産性や技術力の向上に向けた取組を推進。

# 【参考】政府文書等における位置づけ

## (3) 自民党宇宙特別委員会提言・与党復興加速化本部提言

- 令和8年6月12日に提出された自民党「復興加速化本部提言(第15次)」において、F-REIを宇宙・廃炉等の過酷環境に対応するロボット開発の実証拠点としていくことを明確に位置づけ。

### ■ 復興加速本部提言(第15次) 全27頁

令和8年6月12日、東日本大震災復興加速化本部より  
高市総理・牧野復興大臣・赤澤経済産業大臣・石原環境大臣・鈴木農林水産大臣に申し入れ。  
F-REI(福島国際研究教育機構)・RTFが特に重点的に取り組むべきテーマとして、  
宇宙等の過酷環境でも活躍できるロボットの開発、放射線がん治療薬の開発を提言



高市総理大臣、関係大臣に提言を手交する自 公一衆日本大震災復興加速化本部長と閣内閣議員  
\*\*\* 東日本大震災復興加速化のための第15次提言 | 政策 | ニュース | 自由民主党

### ■ 次の5年間で応えきれていない課題を徹底して成し遂げる

P9  
○ F-REI が他にはない広大な実証の場を有している強みを持っていることを活かしつつ、5つの重点分野のうち、廃炉、宇宙、災害現場、気候変動下の農作業や林業などの過酷環境でも活躍できるロボット、最先端の放射線がん治療薬の研究などの放射線フロンティア医療・研究を特に重点的に取り組むべきテーマとして研究体制の整備を進め、内外にアピールしていくことが重要である。

### ■ 福島国際研究教育機構(F-REI)の今後の方向性について

P18  
(1) 「宇宙や廃炉等の過酷環境でも活躍できるロボット」= 国内随一のロボット開発・実証拠点  
○ 今後さらに、多様な「過酷環境」を克服し、廃炉、宇宙(火星探査等)、災害現場、気候変動下の農作業や林業等の、人が作業することが困難な環境に対応して自律的に活動できる、フィジカル AI も活用したロボット開発を重点的に実施するべきである。

P20  
○ 「宇宙や廃炉等の過酷環境でも活躍できるロボット」と「放射線フロンティア医療・研究」を今後、特に重点的に取り組むべきテーマとして、研究環境の整備を進めつつ、各省庁と F-REI から内外にアピールしていくこと。

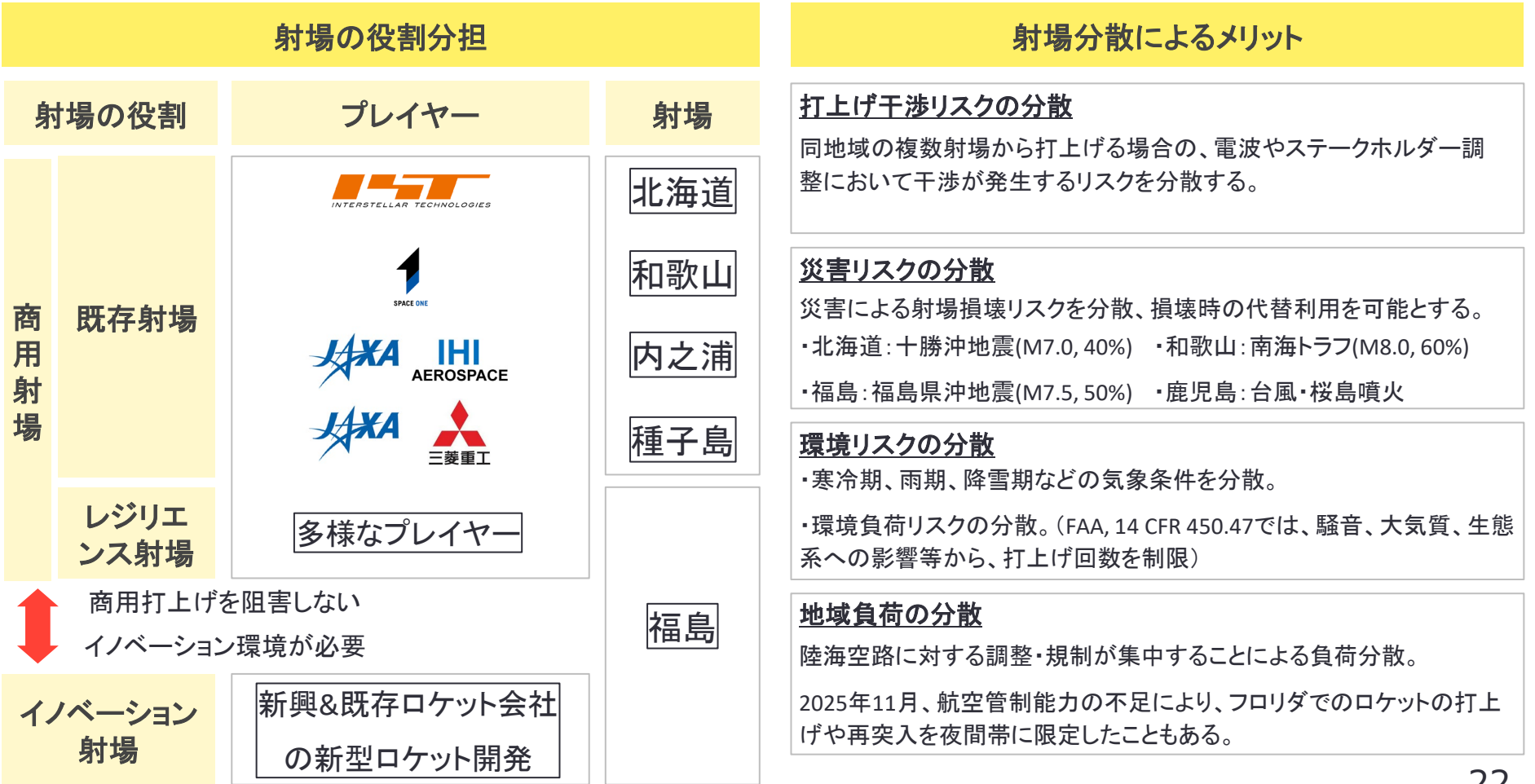
P21  
○ そのため、経済産業省を中心に、F-REI 及び RTF が、フィジカル AI も活用した世界水準の過酷環境ロボット・ドローンの一大研究・実証拠点となるために必要な施設・設備の内容について、企業のニーズをくみ取りながら早急に検討し、予算措置すること。

○ これらの研究事業の研究費を速やかに少なくとも倍増すること。

ASTRO GATE株式会社

# 福島レジリエンス射場 & イノベーション射場により日本の宇宙輸送発展に貢献

- 日本の宇宙輸送能力向上には、ロケットの更なる開発と、日本全体での射場の役割分担が必要
- レジリエンス射場の必要性：KPI30に対する根本的な国内射場不足に対して、射場を分散配置することで、打上げ干渉、災害、環境、地域負荷等のリスクを分散し、宇宙輸送のレジリエンス向上に繋がる
- イノベーション射場の必要性：ロケット開発フェーズの燃焼試験や打上げ試験は、既存の商用射場周辺で実施すると、商用打上げを阻害するリスクがある



# 燃焼・打上げ試験施設を軌道投入機レベルに

- 研究-製造-打上げ-後工程まで、日本屈指のプレイヤー数とインフラ規模を有す。
- 既存の試験インフラは、サブオービタル級の試験に対応可能な規模。今後、軌道投入ロケットレベルに対応した、燃焼試験施設や打上げ実証施設を整備することで、既存の商用射場に負担をかけず、“実証の聖地”として日本におけるロケット開発を促進し、年間30機、その後の年間50機打上げの実現に貢献する。

## 研究開発試験

## 製造

## 打上げ

## 衛星利用・回収 ・ロケット着陸

プレイヤー

### 学術機関



テクノアカデミー浜



福島国際研究教育機構

F-REI  
福島国際研究教育機構



東北大学



会津大学

TOHOKU  
UNIVERSITY

### 航空宇宙系製造業

全国2位

航空機用エンジンの部分品・  
取り付け具・附属品出荷額

37社

宇宙実績のある県内企業数

27社

JISQ9100

### 宇宙輸送企業



AstroX



将来宇宙輸送システム  
Innovative Space Carrier



SUIHO SPACE



PD AEROSPACE

### 衛星利用



LAND INSIGHT

### 回収



ELEVATION  
SPACE

### 宇宙港企業

ASTRO GATE

インフラ

### 試験施設



福島ロボットテストフィールド

### 燃焼試験施設 軌道投入機レベルへ



角田宇宙センター

能代宇宙センター



三菱重工

田代試験場

### インキュベーション施設



MLC SPACE LAB



南相馬

インキュベーションセンター

### 打上げ実証施設 軌道投入機レベルへ



### ロケット洋上着陸



相馬港他多数

## 【参考】説明者の基本情報(令和8年7月1日時点)

### ■一般社団法人宇宙産業連携機構

(代表)

代表理事 但野 謙介、大出 大輔

(住所／連絡先)

福島県南相馬市小高区本町1-87／[info@aica.or.jp](mailto:info@aica.or.jp)

(団体概要・取組内容)

福島沿岸地域で宇宙産業の集積と地域住民との調和を両立させ、研究開発・実証拠点として投資を呼び込みながら地域とともに発展することを目指している。カンファレンス等の企画開催、中高への講師派遣や打ち上げ見学プログラム、地域交流コミュニティの運営などに取り組んでいる。

### ■ASTRO GATE株式会社

(代表)

代表取締役社長 大出 大輔

(本店住所／連絡先)

東京都あきる野市油平136／[info@astrogate.jp](mailto:info@astrogate.jp)

(団体概要・取組内容)

スペースポートの企画運営事業・ロケット打上げおよび燃焼試験の支援事業・宇宙関連コンサルティング事業等

### ■南相馬市

(代表)

市長 門馬 和夫

(住所／連絡先)

福島県南相馬市原町区本町2-27／0244-24-5325(商工観光部宇宙関連産業推進室)